

令和6年度 第2回土木計画学研究委員会 幹事会 議事録

日時：令和7年3月18日(日) 13:00 - 17:00

場所：ハイブリッド

対面会場：函館市地域交流まちづくりセンター 研修室 A/B

オンライン：zoom

■ 出席者(敬称略, 順不同)

委員長：佐々木 邦明 (早稲田大学)

副委員長：辰巳 浩(福岡大学), 山崎 基浩 (豊田都市交通研究所)

幹事長：福田 大輔 (東京大学)

学術小委員会：岸邦宏 (北海道大学) *

大会運営小委員会：有村幹治 (室蘭工業大学) * (欠：日比野直彦 (政策研究大学院大学))

委員兼幹事：浅田拓海 (室蘭工業大学), 石井良治 (計量計画研究所), 井上亮 (東北大学), 金子素子 (アルメック), 樋口恵一 (大同大学), 山口裕通 (金沢大学), 大山雄己 (東京大学), 加藤哲平 (長岡技術科学大学), 佐藤史弥 (山梨大学) *, 中尾聡史 (京都大学), 兵頭知 (徳島大学) *, 福井 のり子 (バイタルリード) *

オブザーバー参加

学術小委員会：平石浩之 (日本能率協会総合研究所) *, 鈴木雄 (北海学園大学) *

大会運営小委員会：中村一樹 (名城大学) *

*：オンライン参加者

■ 欠席者(敬称略, 順不同)

谷下雅義 (中央大学), 尾野 薫 (宮崎大学), 大平 悠季 (東京都立大学)

■ 議事 (敬称略)

1. 委員長挨拶他

- ◆ 佐々木委員長から挨拶があった。

2. 前回議事録 (令和6年度第1回幹事会) の確認 (福田)

資料2

- ◆ 議事録について原案どおりの内容で承認された。

審議事項

3. 大会運営小委員会からの報告・審議事項 (有村)

資料3

- ◆ 2025年度の秋大会及び春大会, 2026年度の春大会の準備状況, 講演集 CD-ROM の廃止等について説明があった。
- ◆ 講演集 CD-ROM の廃止と完全オンライン化に関連して, 投稿可能な論文ファイルサイズの緩和, ダウンロードサイトの公開期間等 (二重投稿にあたる懸念) に関しては, 引き続き検討することが確認された。
- ◆ 土木計画学の参加人数と秋大会地方部開催の是非に関しては, 下記のような意見が出た。

- ✓ 参加人数が増えること自体は、委員会の予算確保等の観点からプラスの側面もあり、参加人数の抑制等の対応は予算執行とも関連する議論である。但し現状では、委員会予算が例年より余り気味であり、研究発表会のサービス向上等への還元が十分にできていない。（福田）
- ✓ 春大会と秋大会の都市部開催と地方部開催を入れ替えることも対応案としては考えられるのではないか。（山口）
- ✓ 秋大会の企画セッションでは発表本数が多く、十分な議論をなされづらいセッションもあるため、発表本数を絞ることも考えられるのではないか。（大山）

4. 学術小委員会からの報告・審議事項（岸）

資料 4

- ◆ 土木学会論文集（土木計画学）特集号（Vol. 80）の査読状況、次年度の体制、Editorial Manager への移行等について説明があった。
- ◆ Editorial Manager に関しては、査読者や投稿者が使いやすいように、マニュアル等の整備をすることが確認された。
- ◆ 学術小委員会の体制の変更に関連して、土木計画学委員会の運営規則細則を次回春大会時の委員会にて改正することが確認された。
- ◆ 査読分野の表現についても、方法と技術、政策と実践の両カテゴリーが並立することに伴って、一体化・統一化を図ってはどうか。（福田）
- ◆ 春大会のポスター審査に関して、近年ポスター投稿数が増加しており審査側の負担も大きく、審査の廃止等も視野に継続的に検討することが確認された。

5. 令和 7 年度全国大会計画学幹事会セッションについて（井上、浅田、加藤、中尾）

資料 5

- ◆ 令和 7 年度の土木学会全国大会における研究討論会及び幹事会セッションの企画について説明があった。
- ◆ 森富山大学特任教授には謝金を支払うことが確認された。
- ◆ 開催に関しては、事前録画ではなくリアルタイムでの開催を基本として、引き続き日程調整を行うことが確認された。

6. 令和 6 年度の予算執行について（福田、山口、大山）

資料 6

- ◆ 現在までの予算の執行状況の説明があった。今年度は、特集号 Editorial Manager 導入、春大会の会場費、J-rail 講演論文集の pdf 化等の臨時の支出等があったため、予算に関しては概ね順調に執行されているとの説明があった。
- ◆ 能登半島地震調査の船舶データ購入に関しては、マルチライセンス化の価格が適用されることが報告された。能登半島地震プロジェクトメンバー間でのデータ共有を図ることが確認された。
- ◆ 能登半島地震関連の継続調査に対して委員会からの継続支援が必要な場合、引き続き幹事会に相談いただき、必要に応じた支援を行うことが確認された。
- ◆ なお、能登半島地震の特集企画に関しては、具体的方法等を防災担当中心に引き続き検討することが確認された。

報告事項

7. 研究小委員会関連（福田、小野、兵頭）

資料 7

- ◆ 「国土強靱化の根底理念・全体像の再構築に関する検討小委員会」の設置の説明があった。
- ◆ 出版目的で、少数委員で公募は行わないという趣旨であれば、小委員会ではなく事業委員会とすることも考えられる。計画学研究委員会に対する本小委員会の貢献が何であるのかなども含めて、提案者に趣旨等を改めて確認することとした。
- ◆ 小委員会は、本来、小委員会の中で萌芽的な議論をした上でその後の本格的な資金調達・プロジェクトの立ち上げにつなげるというのが当初の主旨であったが、近年は、プロジェクトベースで土木計画学の肩書を活用するために立ち上げられていると思われる小委員会も見られる。小委員会のあり方に関して、継続的な議論が必要であることが確認された。

8. 新規企画関連（山崎，金子，福井）

資料 8

- ◆ 新規企画に関して、学会参加に関する実態調査，理論と実践に関する変遷調査，継続した仕組みの検討等に関する企画案の説明があった。
- ◆ 計画学 60 周年に向けて継続的に企画を検討・準備していくことが確認された。

9. フリーディスカッション

- ・フリーディスカッションにあたって、福田幹事長より以下のキーワードが提示された。
 - ✓ 研究発表会，秋大会企画や SS の役割
 - ✓ 土木計画学の内部評価と外部評価
 - ✓ 重点プロジェクト
 - ✓ 土木技術者資格制度
 - ✓ 研究の最先端は小委員会で行うか，又は，コミッティ制とするか
 - ✓ 対外的貢献
- ・政策と実践に関しては，下記のような意見が出た。
 - ◆ 交通工学研究会では講習等が設けられ実務者が多く参加している印象がある。都市計画学会も同様である。土木計画学研究発表会は，それらの学会と比較すると研究者の割合が高いように思われる。
 - ◆ 実践はもちろん重要だが，大学としては業績評価に反映されないという構造的な問題もある。
 - ◆ 建設コンサルタント協会等のコンサルタントが集まる場との連携も考えられる。土木学会にも土木学会実践論文集研究発表会があり，連携することも考えられる。
 - ◆ 土木計画学では，数十年前まではマニュアル等を作成し，その普及促進活動を行っていた。例えば，交通需要予測や利用者均衡配分，モビリティマネジメント等がある。近年はそのような取り組みが無くなっているように思われる。
 - ◆ モビリティマネジメントに関しては，土木計画学内で研究により知見が蓄えられた後に，JCOMM へと展開したかたちとなっている。そのように実践との関わっていくことも考えられる。
 - ◆ 同様の研究内容を発表する場合でも，JCOMM では行政や実務向け，土木計画学では学系向け等といったように，説明の仕方を使い分けていることもある。
 - ◆ 実践的な取り組みはスピンアウトしやすいよう，学会として環境を提供することも考えられる。例えば，そのような取り組みに土木計画学の予算を重点的につける，企画セッション等は予めスピンアウト等を意図した内容を提案してもらう等が考えられる。
 - ◆ 学会参加に関する実態調査は是非実施できるとよい。アンケートの対象として，各会社の人事担当者を対象にすることも考えられる。採用を左右するのは人事であり，人事の人が何を考え

ているのかを把握しておくことも有用と考えられるためである。

- ◆ 土木計画学は行政等の実務ニーズに応えられているのかについても、外部評価をした方がよいのではないか。土木計画学 30 周年時には外部評価を行っていた。
- ◆ 以前に行政側から土木計画学は役に立っていないという評価を受けたこともあった。厳しい内容でも、まずはきちんと評価をいただくことが大事ではないか。まずは次回の全国大会で、例えば森富山大学特任教授から、行政の立場での忌憚ないご意見をいただけるとよいのではないか。
- ・ 秋大会、春大会、全国大会等の役割に関しては、下記のような意見が出た。
- ◆ 秋大会等は参加人数が増えているため、対面とオンラインでのハイブリッド化を常態化することは案として考えられる。ただし、オンライン参加者の費用をどのように設定するのか等の課題がある。
- ◆ 春大会、秋大会の内容を入れ替える（2018 年以前の状態に戻す）ことも案として考えられる。
- ◆ 90 分で 8-9 本の発表では、議論する時間がほとんど取れないため、投稿本数が多いとポスターセッションにするという判断をすることもある。
- ◆ 秋大会はアブストラクトのみで参加登録ができるため、参加者数が増えやすいのではないか。
- ◆ 学生は土木学会全国大会の年次学術講演会での発表・ポスターを促すのはあるのではないか。ただし現状では、秋大会や春大会に出した方がよいコメントが貰いやすいため、全国大会には出さないという判断をすることもある。また、全国大会での発表も査読付き論文に投稿できるようにすることを並行して検討していく必要があるのではないか。

10. その他

- ・ 次回委員会予定（6 月 7 日(土)昼休み、夜：慰労会、8 日(日)昼：委員会報告）

以上（議事録作成：石井）